

ウラジロマタタビ

Actinidia arguta var. *hypoleuca*

マタタビ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

落葉性藤本。葉はやや厚く、楕円形から広楕円形、先端は短鋭尖頭、基部は円形または浅心形、縁に細鋸歯があり、表面濃緑色、裏面は粉白色を帯び、硬い草質で、柄は長さ2～6cm。葉柄は淡赤褐色になる。雌雄異株、または雑居性。花は径10～15mm。花卉5個、白色、暗紫色の葯をつける。果実は長さ2～3cm、広楕円形、やや明色の斑点をまばらにつける。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

明るい林内や林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁の過度な草刈りなどの管理により自生地が消失する可能性があるため、管理を実施する際には留意することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



©七島花の会

(執筆者：奥田重俊・畔上能力)

ハチジョウオトギリ

Hypericum hachijoense

オトギリソウ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は叢生し、草丈は低く、高さ5～15cm。節間は短縮する。葉は線状長楕円形または狭長楕円形、明点があつて少数の黒点が入ることもあり、縁には黒点が並ぶ。5枚の黄色い花卉は倒卵状長楕円形で明線が入り、時に黒点が混じる、縁には黒点がある。花柱は長さ25mm、子房より短い。さく果は卵状長楕円形、長さ7mm。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

登山道や山頂付近の日当たりの良い砂礫地や火山性裸地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

競合する他の植物を刈取りなどにより管理することが望ましい。

【関連文献】

高橋秀男，1971；七島花の会 神津島，2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	1	1	0	0	2

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	2	0	0	0

判定基準

ACD



(執筆者：奥田重俊)

コオトギリ、ハコネオトギリ(クロテンコオトギリを含む)

Hypericum hakonense

オトギリソウ科

伊豆諸島

EN

環境省

NT

【形態・生態】

一年草。茎は繊細で四稜形、高さ35cm、よく分枝する。葉は薄質で広卵形で円頭、多数の小明点が入るが、縁に腺点がない。基部は半ば茎を抱き、柄状に細くなる。花は枝の先に少数の花をつけた小さな2出集散花序となる。苞は葉と同形で、花の近くにある。子房には線状の腺体がある。萼片は長楕円形で明腺が入る。花弁は長楕円形で長さ2.5mm、3脈があり、腺体はない。雄しべは5～8個。さく果は長さ2～3mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(富士・箱根周辺、奥多摩)

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を保全するために、競合する植物を刈取りにより除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b; 七島花の会 神津島, 2011a。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆: 奥田重俊)

コモウセンゴケ

Drosera spatulata

モウセンゴケ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。根葉はやや密に叢生、開出してロゼット状をなす。根出葉の葉身は広倒卵形で表面に紅色の長腺毛がある。花期は6～9月。高さ5～15cmの花茎が出て、数個から十数個の花が総状につき、短い腺毛が多い。花は花茎の片側につく。萼片は長楕円形で短い腺毛がある。花弁は淡紅色、倒卵形。さく果は球形で径約1.5mm、紡錘形、両端は鈍く、微凸端をなす。葉の腺毛の先は膨らんで粘液を出し、獲物を包み込んで消化吸収する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(宮城以南)、四国、九州、南西諸島; 中国、台湾、東南アジア、オーストラリア

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い貧栄養の湿地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

食虫植物として採取されるおそれがあるため、自生地の情報を秘匿することに加え、水質管理に留意し、選択的な草刈りなどを行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ユリワサビ

Eutrema tenuis

アブラナ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は細くて短い。全体が無毛である。高さ10～30cmで、根出葉は葉柄が長い。茎は細く、のちに倒れる。葉は互生し、卵形、ワサビより小さく、柄の下部は膨らむ。花期は3～5月。花序はまばらに花をつけ、苞はやや深く切れ込む。花弁は4個、へら形で長さ6～7mm。長角果は開出するが下を向き、長さ10～15mm、無柄またはほとんど無柄。5～8個の種子が一行に並び、不明瞭な細点がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

林内の半日陰地や林縁の湿った場所に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者: 奥田重俊)

イスノキ

Distylium racemosum

マンサク科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

常緑高木。高さ8～15m。葉は倒卵形で全縁、長さ3～7cm。しばしばアブラムシ類が寄生し、特徴的な形の大きな虫こぶが形成される。花期は4～5月。葉腋に総状花序を伸ばし、上部に両性花、下部に雄花をつける。花に花弁はない。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(関東南部以西)、四国、九州、南西諸島; 济州島、台湾、中国

【伊豆諸島における生育環境】

常緑広葉樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

風害や土砂崩れなどの自然災害、伐採などによる生育環境の改変が脅威となる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	1

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	0	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆者: 上條隆志)

ハチジョウショウマ

Astilbe hachijoensis

ユキノシタ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ30～80cm。葉は厚く光沢があり、縁には重鋸歯がある。花期は6～7月。白い花を多数つけ、複総状または円錐状花序を形成する。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

比較的高標高地のやや湿った明るい樹林内や、林縁に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が比較的高標高地にあるため、噴火活動が脅威となりうる。また、道路工事などによる林縁の改変や、法面緑化が脅威となる。

【関連文献】

八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会, 2007; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	4	2	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	4	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 上條隆志)

クサアジサイ

Cardiandra alternifolia

ユキノシタ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ約60cm。葉は有柄で草質、披針形または楕円形で鋸歯があり、普通は長さ10～20cm。茎の下部には鱗片状の小さな葉がある。花期は7～9月。花序は頂生し、白色や淡紅色の花を多数つける。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(宮城・福島以南)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

比較的高標高地のやや湿った樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然災害や道路拡張などによる樹林内の乾燥化が脅威となる。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	1	0	5

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 上條隆志)

イズノシマウメバチソウ

Parnassia palustris var. *izuinsularis*

ユキノシタ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 10～15cm。花期は 10～11 月。花弁は長さ約 1.2cm、幅約 1cm。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の火山草原や岩場に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然災害を含めた自生地の環境変化が脅威となる。その一方で、火山草原などでは、植生遷移の進行も脅威となる。そのため、植生遷移を進行させない措置を検討することが望ましい。また、園芸目的の採取も脅威となっている。

【関連文献】

加藤雅啓・海老原淳(編), 2011.



(執筆者: 上條隆志)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	2	0	3	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準
E+ACD

イワガラミ

Schizophragma hydrangeoides

ユキノシタ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

落葉藤本。葉は広卵形、長さ 5～16cm。葉縁にはややまばらに浅い鋭鋸歯があり、表面は主脈に沿って白色の毛がある以外は無毛、花期は 5～7 月。ツルアジサイに似るが、花柱は 1 個で花序周辺の装飾花の薯片は 1 個(ツルアジサイは花柱 2 個、薯片 4 個)であり、葉縁の鋸歯がより粗いことが多い。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

湿った樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然災害や道路拡張などによる樹林内の乾燥化が脅威となりうる。自生地を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a.



(執筆者: 上條隆志)

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D

シヤマブキショウマ

Aruncus dioicus var. *insularis*

バラ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 30～80cm。葉は厚く、裏面は無毛。花期は 6～8 月。花弁は楕円形で、ヤマブキショウマよりも長い。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地のやや湿った明るい森林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が高標高地に限られるため、噴火活動が脅威となる。その一方で、火山草原などでは、植生遷移の進行も脅威となる。そのため、植生遷移を進行させない措置を検討することが望ましい。

【関連文献】

八丈島インタープリテーション協会・植物ガイドブック作成部会, 2007; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	1	2	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	2	0	0

判定基準

E+ACD



©七島花の会

(執筆者: 上條隆志)

カワラサイコ

※備考 (p. 213)

Potentilla chinensis

バラ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は太い。茎は四方に広がり長さ 30～70cm。葉は羽状複葉。小葉は 15～29 個で、長さ 2～5cm、倒披針形。下面に白色の綿毛を密につける。茎の先は分枝した花序になり、多数の花をつける。花は 6～8 月に咲き、黄色で径 1～1.5cm。花弁は 5 個、倒卵形。花床は有毛。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州; 朝鮮半島、中国、モンゴル、ロシア(アムール、ウスリー)

【伊豆諸島における生育環境】

明るい草地や砂礫質の裸地などの乾燥した場所に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

二次草地に生育する植物であり、植生遷移の進行により消滅するおそれがある。草刈りなどの管理作業を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者: 奥田重俊・池田博)

キジムシロ

Potentilla fragarioides var. *major*

バラ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は太く、葉を根生する。茎は高さ5～30cmになり、全株に長い開出毛がある。葉は羽状複葉で、5～7小葉からなり、頂小葉がもっとも大きい。小葉は楕円形で鈍頭、鋸歯縁である。托葉は披針形、膜質で外面に粗毛がある。花茎に多数の花をつける。花期は4～5月。花は黄色、径15～20mm。萼片は卵状披針形、副萼はやや小型。花弁は5個、長さ6～12mm。花床には毛がある。そう果にしわがある。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国、ロシア（シベリア南東部）

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草原性の植物であり、植生遷移の進行により消滅するおそれがあるため、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	0	0	0	0

判定基準
E+ACD



（執筆：奥田重俊）

ミヤマフユイチゴ

Rubus hakonensis

バラ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

つる性の常緑低木。茎はとげを散生し、伸長して60cmほどになり、先から根を下ろす。葉はやや円形または卵円形、やや革質、刺は細く、基部は心形、3～5浅裂し、縁には細鋸歯がある。花序は腋生し、総状でやや密に数花をつける。小花柄は短毛がある。花期は8～10月。花は白色、萼裂片は卵形で鋭尖頭、時に先端は2～3裂する。花弁は5個、倒卵形で長さ4～5mm。果実は球形、径約9mm、初冬に紅熟する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内の暗い林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成などにより自生地が消失するおそれがあるため、自生地を特定することに加え、林縁やその周辺環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による



（執筆：奥田重俊）

シマコゴメウツギ

Stephanandra incisa var. *macrophylla*

バラ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

落葉低木。本土のコゴメウツギに比べて大きく、葉が厚く托葉の幅が広い。花期は5～6月。散房状の花序をなし、小さく白い花を枝先につける。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

林縁や明るい林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路工事などの林縁の改変が脅威となる。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989a; 大島自然愛好会(編), 2000.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	1	4	1	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	1	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 上條隆志)

トキリマメ

Rhynchosia acuminatifolia

マメ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

つる性の多年草。類似種のタンキリマメによく似ているが、全体に黄褐色の毛がより少ないため緑色が目立つ。頂小葉は卵形で鋭尖頭、薄質、裏面にややまばらに伏した軟毛がある。花期は6～9月。花は黄色、萼裂片は三角形で、萼筒より短い。豆果はほとんど柄がなく、長さ15～17mm、紅熟し、黒色の種子を1～2個を入れる。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(宮城以西)、九州; 朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

林縁の藪に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

クサフジ

Vicia cracca

マメ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

つる性の多年草。茎は長さ 150cm に達する。多少の軟毛があり、托葉は 2 裂し、披針形。葉はほとんど無柄で長さ 8 ~ 15cm、先端は分枝する巻きひげとなる。小葉はほとんど葉の基部からつき、18 ~ 24 枚、狭卵形。托葉の基部に外向きの大きな歯牙が 1 個ある。花期は 5 ~ 9 月。花は青紫色、総状花序にやや一方に偏って密につき長さ 10 ~ 12mm。最下の萼裂片は不同長で、萼筒より短い。豆果は長楕円形、扁平、長さ 2 ~ 3cm、無毛、2 ~ 6 個の種子を入れる。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、九州；北半球の温帯から亜寒帯

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良いやや湿った草地や路傍に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道や農道などで草刈りなどを実施し、自生地の保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ヒロハクサフジ ※備考 (p. 213)

Vicia japonica

マメ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

つる性の多年草。茎は長さ 100cm に達し、木質の長い根茎がある。小葉は 10 ~ 16 枚、長楕円形で両面に白軟毛があり、のちに表面は無毛となる。托葉は小型で 2 裂する。花期は 6 ~ 9 月。花は淡青紫色で、長さ 12 ~ 15mm、翼弁は竜骨弁より長い。萼は軟毛があり、萼裂片は不同長で、最下の裂片は他よりも長い。豆果は狭楕円形、3 ~ 4 個の種子を入れる。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州 (近畿以東); 朝鮮半島、ロシア (サハリン)

【伊豆諸島における生育環境】

海岸の草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸付近の林道や農道での過度な草刈りなどの管理により自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ミツバフウロ

Geranium wilfordii

フウロソウ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ30～80cm、基部は倒伏し、下向きの毛がある。葉身は3深裂し、幅5～8cm、裂片はやや菱形をなし、鋭頭または鋭尖頭、不整の欠刻、表面および裏面脈上には細毛がある。托葉は三角形。花期は7～10月。花は淡紅色で径1～1.5cm、花柄や小花柄には下向きの屈毛と圧毛が密生する。萼片は花弁より少し短く3脈があり、脈上に短い圧毛がある。さく果は長さ約2cmで、長毛と細毛が密生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東北部）、ロシア（アムール）

【伊豆諸島における生育環境】

山地の林道沿いなどの草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：奥田重俊）

ナツトウダイ ※備考 (p. 213)

Euphorbia sieboldiana

トウダイグサ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は直立し、高さ40～50cm。葉は細長く、先端がやや丸みを帯び、互生する。茎の先端に5枚の葉が輪生し、さらに放射状に「枝」を立ち上げ、上端は2枚の苞葉と杯状花序となる。総苞片からなる「壺」の中に、雌花と3～4個の雄花で杯状花序を形成する。花期は3～4月。雌しべ柱頭は3裂し更にその先端は2裂する。受粉後、花柄が伸び若い果実が垂れ下がり、その後、雄しべが順次立ち上がる。花糸は短くY字形となり、両端は薬となる。壺の周囲には、三日月形で両端が細長くとなった腺体が4個ある。この腺体には、緑、黄緑、黄といった色の違いが見られる。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

樹林を切り開いて作られた畑地の縁や疎林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

草刈りによる刈取りや疎林の減少により、自生地が減少している。自生地が草刈りの対象となる可能性があるため、林縁や林床管理を行う際には注意することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島，2008a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



（執筆：石橋正行）

オオモミジ

Acer palmatum var. *amoenum*

カエデ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

落葉小高木または高木。高さ 15m に達する。花期は 4～5 月。複散房状の花序をなす。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道（中部以南）、本州（太平洋側は青森、日本海側は福井以南）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

高標高域の樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を現状のまま保全することが望ましい。園芸樹種であるため、本州などからの持ち込みにより、遺伝的かく乱が引き起こされるおそれがある。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	0	1	0	4

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



(執筆: 上條隆志)

ヤマモミジ

Acer palmatum var. *matsumurae*

カエデ科

伊豆諸島



環境省

【形態・生態】

落葉高木。高さ 15m に達することもある。葉は対生し、葉身は 7～9 中裂し、細かい重鋸歯があり、基部は浅心形から切形、裂片の先は尾状に長く伸びる。表面は無毛。裏面は主脈の基部や脈腋にわずかに毛がある。葉柄は無毛。花期は 4～5 月。花序は有花枝に頂生し、15～30 個つく。雄性同株で雄花と両性花を混生する。花は 5 数性、萼片より小さい。雌しべは 8 個。子房は無毛または軟毛がある。分果の翼は平開。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（福井以北の日本海側）

【伊豆諸島における生育環境】

詳細は不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の詳細な生育状況は不明である。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

サクノキ

Meliosma hachijoensis

アワブキ科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

落葉高木。高さ 15～20m。葉は奇数羽状複葉で小葉は 13～19 枚、全縁または低い鋸歯がある。花期は 6 月。白い小花を多数つける。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

明るい樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の改変などが脅威となる。自生地の環境を現状のまま維持することが望ましい。

【関連文献】

教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007; 加藤雅啓・海老原淳(編), 2011.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
12	12	2	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	15	1	0

判定基準

ACD



(執筆: 上條隆志)

ナナミノキ, ナナメノキ

Ilex chinensis

モチノキ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

常緑高木。高さ 6～10m。若枝には稜があって無毛。乾くと暗褐色になり、枝は暗灰色。葉身はやや革質で長楕円形、縁に粗い鋸歯があり、両面とも無毛。花期は 6 月。雌雄異株。雄花序は新枝の葉腋から花序軸を伸ばし、集散状に 2～12 個の花をつける。雌花序は葉腋から伸びる花序軸の先に 1～2 個の花をつける。萼片は広卵形。花弁は 4 個、淡紫色、径約 5mm。果実は核果、広楕円形で長さ 6mm、赤熟する。種子は長楕円形である。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州(静岡以西)、四国、九州; 中国

【伊豆諸島における生育環境】

常緑樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定することに加え、自生地の環境を現状のまま保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ゴンズイ

Euscaphis japonica

ミツバウツギ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

落葉小高木。高さ3～6m、ときに10mに達する。枝はやや太く、無毛。葉は対生し、奇数羽状複葉。小葉は7～11個、狭卵形、光沢がある。花期は5～6月。花序は分枝して多数の花をつける。花は黄白色、径3～4mm。萼裂片および花弁は楕円形。雄しべは花弁とほぼ同長。袋果は肉質で赤色に熟し、鎌状に曲がって反転する。袋果は1花に2個、赤紫色。種子は黒色で光沢がある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（茨城および富山以西）、四国、九州、南西諸島；朝鮮半島（南部）、台湾、中国（中部）

【伊豆諸島における生育環境】

落葉樹二次林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を含む樹林全体を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	3	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
D



（執筆者：奥田重俊）

コショウノキ

※備考 (p. 213)

Daphne kiusiana

ジンチョウゲ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

常緑低木。葉は枝先に集まり、軟らかな革質で、先端はとがり、基部は短い葉柄につながる。3月ごろに枝先が頭状に分かれ、早落性の苞葉を伴った数個の花をつける。花に花弁はなく、萼は白い。花時に苞と若枝、萼の外側に細毛がある以外は、ほとんど無毛である。

【分布の概要】

伊豆諸島

【伊豆諸島における生育環境】

新島のスダジイ二次林の林床に生育していた報告があるが、2003年以降、現存する個体は確認できていない。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現存株が確認されれば、伊豆諸島に自生する数少ない個体であるため、その株自体の保存を図ることが望まれる。

【関連文献】

千葉県史料研究財団（編），2003；新島自然愛好会（編），2004.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による



（執筆者：八木正徳）

コガンピ

Diplomorpha ganpi

ジンチョウゲ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

落葉低木。高さ 40～60cm。茎は地表を這い、枝分かれしながら複数本立ち上がり、やや丸みを帯びた単葉が螺旋状につく。花期は 8～9 月。花序は総状で下から順に開花する。萼片は細長く筒状、先端は 4 裂し、裂片の縁に不規則な鋸歯が並ぶ。萼筒の下から 2/3 あたりに短い花糸の雄しべの葯が 4 個、萼筒の入り口近くに長い花糸の雄しべの葯が 4 個ある。雌しべは短く（短い雄しべの 1/3）、萼筒の中に隠れる。子房は楕円形で長い毛に覆われ、花柱先端は樽状に膨らむ。萼筒の内面は白色で、外面の色が薄く赤色になる個体もある。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

低木林や崖上の日当たりの良い路傍に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道を広げたりする際に、掘り取られてしまう可能性があり、注意することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2008e; 七島花の会 神津島, 2011b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

D



© 七島花の会

(執筆: 石橋正行)

マルバアキグミ

Elaeagnus umbellata var. *rotundifolia*

グミ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

落葉低木。アキグミの海岸型で、高さ 1.0～1.5m。葉は互生し葉幅が広く、先端は短くとがり、花時には円形の葉が見られる。葉裏は鱗状の毛が密生し銀白色となり、果実表面の切れ込みが少ない鱗状の毛に比べると、細く裂ける。花期は花期は 4～5 月。萼筒先端は 4 裂し、裂片は十字形。萼筒基部は肥大化し種を包み込んで偽果となり、赤色または橙色に熟す。赤色果実は長径、短径共に 8mm 程で球状樽型、橙色果実は長径 11mm、短径 8mm、楕円状樽型でやや大きい。種子も橙色果実の方が一回り大きい。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い海岸沿いの草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路沿いの土手面に生育している場所は、草刈りの対象となる可能性があり、草刈りなどの管理を行う際には注意することが望ましい。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2008g; 七島花の会 神津島, 2013.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 石橋正行)

コミヤマスミレ

Viola maximowicziana

スミレ科

伊豆諸島

NT

環境省

【形態・生態】

多年草。地下茎は短い。葉、葉柄、花柄および萼に長毛がある。葉は軟らかく、卵状楕円形で鈍鋸歯があり、基部は心形、表面に普通は白斑が入り、裏面は紫色を帯びる。花柄は高さ5～10cm。5月に白い花が咲き、スミレの中ではもっとも花期が遅い。萼片は広披針形で、反り返る。花弁は長さ8～10mmで、幅が狭く、側弁には少し毛がある。唇弁は他の弁より短く、紫条が入る。距は短く、長さ2～3mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内の薄暗い谷筋に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

競合する植物の管理を行うなど、自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

いがりまさし, 1996; 佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	1	1
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者: 奥田重俊)

ニオイタチツボスミレ

Viola obtusa

スミレ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。全体に細かな毛と褐色の点がある。茎は叢生し、果期には高さ30cmになる。根出葉は円心形で基部は心形。茎葉は三角状狭卵形になり、托葉は深く羽裂する。花は4～5月に咲き、芳香があり、濃紅紫色で、花心は白く目立ち、花柄には細毛がある。花弁は円く、長さ12～15mm、側弁は無毛、距は長さ6～7mmで、左右から扁平である。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道（西南部）、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い芝地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地を特定することに加え、開発や植生遷移の進行に留意することが望ましい。

【関連文献】

いがりまさし, 1996; 七島花の会 神津島, 2011a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	2	0	0	0
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



©七島花の会

(執筆者: 奥田重俊)

イソスミレ

Viola senamiensis

スミレ科

伊豆諸島

DD

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。地下茎は木化して肥厚し、著しく長く伸びて分枝する。茎は叢生し、高さ5～10cm、大株になることもある。葉はやや小さく、扁円心形、先は鈍くとがり、基部は心形、低い鋸歯がある。托葉は羽状に深裂する。花柄はふつう莖上に腋生する。花は5月に咲き、紫紅色から淡紫色、萼片は広披針形。花弁は長さ13～15mm、側弁は無毛、距は長さ5mmで白い。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道(西南部)、本州(日本海沿岸)

【伊豆諸島における生育環境】

不明である。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

現在の生育状況については情報が得られていない。分布や生育の状況を確認することが望まれる。

【関連文献】

いがりまさし, 1996; 佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ヒカゲスミレ

Viola yezoensis

スミレ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。全体に粗い毛がある。地下茎は細く、匍枝を伸ばし、その先に不定芽を生じて増える。葉は卵形ないし長卵形で質は薄く、先は鈍頭、基部は深い心形、縁に鈍鋸歯があり、軟らかい。葉柄は長い。果期の葉はさらに大きくなる。花柄は高さ7～12cmで粗い毛がある。花期は4～5月。花は大形で白色。萼片は広披針形。花弁は長さ15～20mm、側弁には毛があり、唇弁には紫条がある。距は長く、長さ7～8mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道(西南部)、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内の斜面から谷筋にかけて土壌が厚く堆積した場所に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林床管理に重点を置きながら自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

いがりまさし, 1996; 佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

タニタデ ※備考 (p.213)

Circaea erubescens

アカバナ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。白色の細長い根茎がある。ほとんど無毛、通常紅色を帯びる。茎は高さ 30～50cm になり、節が高く紅色を帯びる。葉は対生し軟らかく、長卵形から卵形、先は鋭尖形、縁に低い鋸歯があり、葉柄は紅色を帯びる。花期は 7～9 月。花序は長さ 6～10cm あり、毛はない。萼裂片は赤色で反り返る。花卉は普通 3 個の鉤歯があり、白色。果実は長卵形で、径 2～2.5mm のかぎ形の毛が密生する。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；台湾、中国

【伊豆諸島における生育環境】

林道沿いなどの湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ミズタマソウ

Circaea mollis

アカバナ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。細い地下茎を出す。茎は高さ 20～50cm で、下向きの細毛がある。葉は長卵形から卵状長楕円形で、柄は長さ 1～4cm、細毛が生え縁に低鋸歯がある。花期は 8～9 月。花は白色または淡紅色。花序は長さ 15cm になり、毛はないかまたは細毛を散生する。果実は広倒卵形で溝があり、白色のかぎ状の刺毛をつける。花序の中軸は無毛または腺毛がある。子房には白い曲がった毛があり、果期には大きく膨らみ、球になり目立つ。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国、インドシナ

【伊豆諸島における生育環境】

林道沿いなどの湿った草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成や過度な草刈りなどの管理により自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	2	0	0

判定基準

D



© 寺尾博

(執筆: 奥田重俊)

ホザキノフサモ

Myriophyllum spicatum

アリノトウグサ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は細長く伸びて、枝を分け、長さ30～150cm、時には3mにもなる。水中にある葉は4枚輪生し、無柄、卵形で羽状に深裂し、裂片は糸状で対生する。花期は5～10月。頂生する穂状花序の長さ3～8cm、各節に4花をつけ、水面より突き出て、上部に雄花、下部に雌花をつける。雄花は先に開き、花弁は淡紅色、楕円形で、長さ1.5～2.5mm。雄しべは8個。雌花の萼筒の裂片はごく小さい。果実は4分果となり、長楕円形、長さ2～25mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州、南西諸島；北半球の温帯から亜熱帯

【伊豆諸島における生育環境】

低地のやや富栄養な池や沼に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

排水工事などによる自生地の消失に留意し、また、水質保全や競合する外来植物の除去を行うことが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

E+ACD



(執筆: 奥田重俊)

クマノミズキ

Cornus macrophylla

ミズキ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

落葉高木。高さ8～12m。若枝には4～6個の縦稜がある。葉は対生し、卵形または楕円形で短い伏毛があり、葉脈は5～8対。裏面は粉白色、両面に白く短い伏毛がある。花期は6～7月。枝端に散房花序をつけ、黄白色の小さい花をつける。萼筒に白伏毛が密生し、萼歯は4個あり小さい。花弁は4個、狭長楕円形で長さ4～5mm、雄しべは4個、花盤の縁につく。核果は球形で紫黒色に熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州；朝鮮半島、台湾、中国からヒマラヤ・アフガニスタンの山地

【伊豆諸島における生育環境】

落葉樹林に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林の伐採などにより自生地が消失するおそれがあるため、自生地を含めた樹林環境を広く保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら(編), 1989b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

シラネセンキュウ

Angelica polymorpha

セリ科

伊豆諸島

VU

環境省

【形態・生態】

多年草。高さ 80 ~ 150cm。葉は 3 ~ 4 回 3 出羽状複葉で、小葉の縁の切れ込みの程度は不揃い。花期は 9 ~ 11 月。花弁が 5 枚の白く小さな花を多くつける。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

林縁や、やや明るい樹林内に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

道路工事などの林縁の改変が脅威となる。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b; 教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会, 2007.



(執筆者: 上條隆志)

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	不明
2	2	0	1	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準
E

ミシマサイコ

※備考 (p. 213)

Bupleurum falcatum

セリ科

伊豆諸島

CR

環境省

VU

【形態・生態】

多年草。根茎は太い。平行に走る脈のみで横ぎる細脈はない。茎は直立し、高さ 40 ~ 70cm。茎につく葉は広線形で、平行脈があり質はやや硬い。複散形花序は大形で多数の花をつける。花期は 8 ~ 10 月。花は黄色、径 2mm。花弁は 5 個。果実は卵球形長さ 4mm。総苞片や小総苞片は細くて短い。重要な薬用植物である。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州; 朝鮮半島

【伊豆諸島における生育環境】

日当たりの良い草地に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

代表的な薬用植物であるため、薬用目的の採取のおそれがあるため、自生地情報の公表を避けることに加え、競合する植物を選択的に除去することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら (編), 1982b.



(執筆者: 奥田重俊)

「現存する株数」別の情報数

~ 10	~ 50	~ 100	~ 1000	~ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

~ 1/100	~ 1/10	~ 1/2	~ 1	~	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による

ハマゼリ

Cnidium japonicum

セリ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。茎は高さ 10～50cm。小葉は柄がなく、羽状に切れ込み、長さ 3～6cm、裂片は短く、先は鈍形。総苞片と小総苞片は細く、縁に毛がある。花は 8～10 月に開き、萼歯片は目立たず、花弁は白色。果実は球形で、分果の隆条は太く、背部は竜骨状にはりだしてよく目立つ。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東西南部）

【伊豆諸島における生育環境】

磯浜などの海岸に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

海岸付近の開発から自生地を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	1	0	0

判定基準

ACD



(執筆: 奥田重俊)

ヒカゲミツバ

Spuriopimpinella nikoensis

セリ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年草。茎の上部は枝を分け、高さ 30～80cm になる。葉は長い柄があり、全て 2 回 3 出複葉、小葉は長楕円形から広卵形で、鋸歯があり、両面と縁に伏短毛がある。花は 8～10 月ごろに開く。花弁は白色。果実は扁球形、分果の隆条は低くて目立たず、油管は多く、全周に配列する。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東以西）、四国、九州

【伊豆諸島における生育環境】

山地の樹林内の湿った場所に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林道の造成などにより自生地が消失しないよう配慮することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1982b.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

アカバナヒメイワカガミ

Schizocodon ilicifolius var. *australis*

イワウメ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

多年草。葉は卵円形で光沢があり、鋸歯は3～5個で先端は鋭くとがる。若葉は赤色、越冬した葉は赤く、黒味を帯び、10個前後の葉が地表に広がる。花期は4月。花茎の先端に斜め上向きに花が1個、ときに2個咲く。花冠は5裂し、先端が細く裂ける。赤い筋模様が、中央から細裂する裂片に向かって枝分かれする。裂片中央部は赤から次第に薄くなり、周辺部にかけて白色となる。1個の雌しべを中心に5個の雄しべが円形状に並ぶ。葯室2個は雌しべの方向へ曲がって平らになり、「ハ」の字型に並ぶ。花茎は濃赤色、萼片は濃赤色と緑色。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（関東中部、南部）

【伊豆諸島における生育環境】

風衝地の日当たりの良い岩場に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

ガレ場の斜面に生育しているため、地震などで斜面が崩落した場合、自生地が消失する可能性がある。

【関連文献】

七島花の会 神津島, 2010e; 七島花の会 神津島, 2012a.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	1	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	1	0	1

判定基準
E+ACD



©七島花の会

(執筆者: 石橋正行)

ウメガサソウ ※備考 (p. 213)

Chimaphila japonica

イチヤクソウ科

伊豆諸島

CR

環境省

【形態・生態】

半低木状の多年草。茎は単立し、高さ5～10cm。葉は普通、茎の節に2～3枚が輪生状につき、広披針形、濃い緑色で中脈の色は薄色、革質である。花期は6～7月。花は茎の先端に直径1cmほどの白花を1～3個下向きにつけ、點頭する。花冠は5裂、白色で径1cmあり、半開する。雄しべは10個、下方が翼状に広がる。さく果は扁球形。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（中部、東北部）、ロシア（サハリン）

【伊豆諸島における生育環境】

樹林内の明るく乾いた場所に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）, 1981.

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準
協議による



(執筆者: 奥田重俊)

シャクジョウソウ

Monotropa hypopithys

イチャクソウ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年生の腐生植物。全体が薄い黄褐色だが、乾くと黒変する。茎には軟らかい毛があり。葉は鱗片状で20～30枚つく。花期は7月。花は柄を持ち、花冠は筒状のつぼ形で、長さ1～1.5cm。さく果は広楕円形、果時に直立する。種子は多数。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；アジア、北アメリカ、ヨーロッパの温帯

【伊豆諸島における生育環境】

腐植の豊富な林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

アキノギンリョウソウ

Monotropa uniflora

イチャクソウ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年生の腐生植物。通常は白色で、乾くと黒変する。高さ10～30cm。鱗片葉は長楕円形で、先に不規則な歯牙がある。花期は8～9月。花は頂生で1個つき、果時には直立する。萼片は3～5個。花弁は3～5個、長楕円形で縁に不整鋸歯がつく。萼片、花弁とも内面に軟毛が生え、外面には密着した短毛がある。花柱は太くて短く、上端は柱頭となり、黄褐色。さく果は上向きにつき、球形で長さ1～1.5cm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；東アジア、北アメリカの温帯

【伊豆諸島における生育環境】

腐植の豊富な林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆: 奥田重俊)

ギンリョウソウ

Monotropa humile

イチヤクソウ科

伊豆諸島

DD

環境省

【形態・生態】

多年生の腐生植物。全体が白色で多肉質だが、乾くと黒変する。茎は高さ8～20cm。丸く小さな鱗片状の葉を付ける。花期は4～8月。花は茎の先端に1個つき、横向きに咲く。花弁は3～5個。雄しべは10個で花糸に密生する白色の軟毛がある。黒紫色になる。果実は液果となり、球形で下を向いたまま熟す。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、九州、南西諸島；朝鮮半島、台湾、中国、ロシア（サハリン）、インドシナ、ミャンマー、ヒマラヤ

【伊豆諸島における生育環境】

腐植の豊富な、やや湿った林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含めた広い範囲の樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
0	0	0	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	0	0	0	0	0

判定基準

協議による



(執筆者：奥田重俊)

イチヤクソウ

Pyrola japonica

イチヤクソウ科

伊豆諸島

EN

環境省

【形態・生態】

多年草。根茎は這い、長い匍枝を伸ばす。葉は基部に集まり、円形で細かい鋸歯があり、長い柄がある。花茎は高さ15～30cm、総状に5～12個の花をつけ、横向きに咲く。花期は6～7月。花は白色、径12～15mmで、花冠は深く5裂する。花柱は長く上方に曲がり、花冠から出る。雄しべは10個。さく果は平たい円形で径7～8mm。

【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島、中国（東北部）

【伊豆諸島における生育環境】

明るく乾いた林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地の周辺も含め樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編），1981。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
1	0	1	0	0	0

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
0	1	0	0	0	1

判定基準

D



(執筆者：奥田重俊)

©七島花の会

ハコネコメツツジ

Tsusiophyllum tanakae

ツツジ科

伊豆諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

常緑小低木。高さ 20～100cm。葉は互生し、狭楕円形でやや厚く、密集する。花期は 6～7 月。1～3 個の小さな花を枝先に散形状につける。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（埼玉、山梨、神奈川、静岡）

【伊豆諸島における生育環境】

高標高地の火山草原や岩場に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自生地が高標高地に限られるため、噴火活動が脅威となる。その一方で、火山草原などでは、植生遷移の進行も脅威となる。そのため、植生遷移を進行させない措置を検討することが望ましい。また、園芸目的の採取も脅威となっている。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1981；教育委員会『フィールド図鑑—御蔵島の植物・動物』制作部会、2007。

「現存する株数」別の情報数

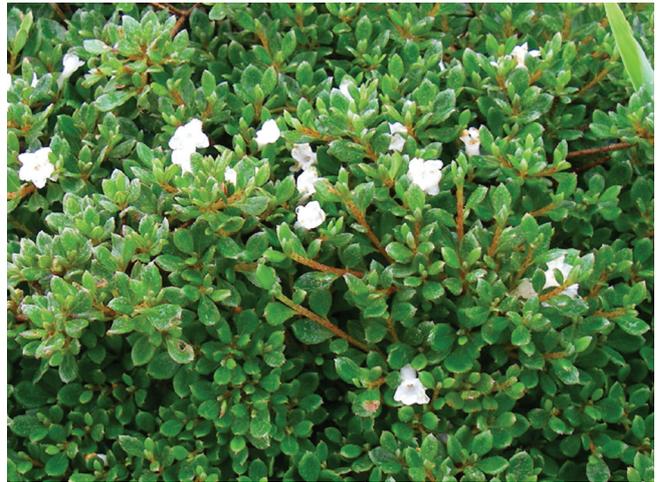
～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
2	1	1	0	0	6

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
1	0	1	0	1	0

判定基準

E



(執筆: 上條隆志)

オオツルコウジ ※備考 (p. 213)

Ardisia montana

ヤブコウジ科

伊豆諸島

VU

環境省

EN

【形態・生態】

常緑小低木。高さ 10～30cm。葉や花は茎の上部につく。花期は 5～7 月。白色の花をつける。

【分布の概要】

伊豆諸島、本州（千葉以西）、九州

【伊豆諸島における生育環境】

常緑広葉樹林の林床に生育する。

【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

常緑広葉樹林の改変などが脅威となる。自生地の環境を現状のまま維持することが望ましい。

【関連文献】

佐竹義輔ら（編）、1989b。

「現存する株数」別の情報数

～ 10	～ 50	～ 100	～ 1000	～ 10000	不明
8	12	3	3	2	10

「以前からの増減」別の情報数

～ 1/100	～ 1/10	～ 1/2	～ 1	～	絶滅および未発見
2	5	1	8	1	4

判定基準

E+ACD



(執筆: 上條隆志)